

海外の畜産物の需給動向

牛 肉

米 国

25年7月の牛総飼養頭数はわずかに減少も、繁殖雌牛保留の兆し

25年7月の牛総飼養頭数、23年比
1.3%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2025年7月1日時点の牛総飼養頭数は9420万頭（23年比1.3%減^{（注1）}）とわずかに減少した（表1）。内訳を見ると、繁殖雌牛（肉用牛）が同1.2%減、未經産牛（肉用繁殖後継牛）が同2.6%減といずれも減少した。一方で、25年1月の調査結果と比べると23年同月時点と比べて減少率が縮小しており、特に繁殖雌牛を保留

する動きが見られている。また、同年8月1日時点のフィードロット飼養頭数は1092万2000頭（前年同月比1.6%減）とわずかに減少した。

このような中、25年7月の1頭当たり枝肉重量は392.8キログラム（同2.6%増）とわずかに増加したものの、牛と畜頭数が253万6000頭（同6.8%減）とかなりの程度減少したことにより、同月の牛肉生産量は99万1000トン（同4.5%減）となった。

（注1）2024年7月は牛総飼養頭数の調査が行われなかったため、23年同月との比較を行う。

表1 種類別牛飼養頭数の推移

（単位：千頭）

区分	2023年	25年	23年比 （増減率）	（参考） 25/23年比 （1月時点）
総飼養頭数	95,400	94,200	▲1.3%	▲2.5%
繁殖雌牛	38,400	38,100	▲0.8%	▲2.9%
肉用牛	29,000	28,650	▲1.2%	▲3.7%
乳用牛	9,400	9,450	0.5%	▲0.5%
未經産牛 ※1	14,900	14,600	▲2.0%	▲3.1%
肉用繁殖後継牛	3,800	3,700	▲2.6%	▲5.2%
乳用繁殖後継牛	3,500	3,500	0.0%	▲3.9%
その他	7,600	7,400	▲2.6%	▲1.7%
去勢牛 ※1	14,000	13,800	▲1.4%	▲1.6%
種雄牛 ※1	1,900	1,900	0.0%	▲1.0%
子牛 ※2	26,200	25,800	▲1.5%	▲1.5%

資料：USDA「Cattle」

注1：表中の※1は500ポンド（約227キログラム）以上、※2は500ポンド未満。

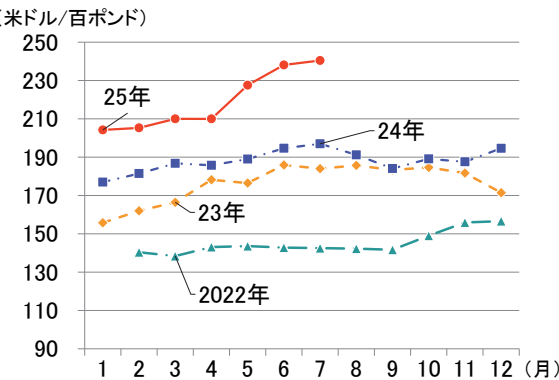
注2：各年7月1日現在（同調査は毎年1月と7月に実施されるが24年7月は未実施）。

25年7月の肥育牛価格、前年同月比22.1%高

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2025年7月の肥育牛価格は、堅調な需要と供給頭数の減少から、100ポンド当たり240.45米ドル（1キログラム当たり784円：1米ドル＝147.92円^{（注2）}、前年同月比22.1%高）と前年同月を大幅に上回り、前月に続き高値で推移している（図）。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年8月末TTS相場。

図 肥育牛価格の推移



資料：USDA「Livestock and Meat Domestic Data」
注1：ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢。
注2：2022年1月の値は、N/A値。

25年6月の牛肉輸出量は前年同月比17.1%減

USDA/ERSによると、2025年6月の牛肉輸出量は9万8442トン（前年同月比17.1%減）と大幅に減少した（表2）。中でも中国向けは3463トン（同78.4%減）と大幅に減少した。中国では、中国海関総署（GACC）による米国内の中国向け牛肉輸出施設登録の更新がされず^{（注3）}、米国から中国への牛肉輸出の大部分が停止している状況にある。

25年の輸出量についてUSDAは、牛肉生産量の減少や直近の輸出動向を踏まえ、121万7000トン（前年比10.8%減）とかなりの程度減少すると見込んでいる。

（注3）5年ごとの認可登録の更新時期を迎えていた3月、GACCにより豚肉・鶏肉の輸出施設の認可登録が更新された一方で、牛肉の輸出施設の一部については未更新の状況が続いている。

表2 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2024年 6月	25年 6月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	25年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)
韓国	23,569	24,182	2.6%	24.6%	155,342	8.5%
日本	25,915	23,594	▲9.0%	24.0%	149,165	▲1.8%
メキシコ	11,939	11,524	▲3.5%	11.7%	70,325	▲8.7%
カナダ	14,038	10,029	▲28.6%	10.2%	53,462	▲10.4%
台湾	10,325	8,564	▲17.1%	8.7%	38,284	▲11.6%
香港	2,858	4,110	43.8%	4.2%	20,673	15.9%
中国	16,023	3,463	▲78.4%	3.5%	65,077	▲39.4%
フィリピン	1,711	2,118	23.8%	2.2%	10,644	▲0.2%
その他	12,425	10,857	▲12.6%	11.0%	70,482	▲6.4%
合計	118,804	98,442	▲17.1%	100.0%	633,453	▲7.7%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注：枝肉重量ベース。

（調査情報部 小林 大祐）

豪州

生産量、輸出量ともに過去最高を更新、生体価格も上昇

25年8月若齢牛価格、900豪セント台に迫る

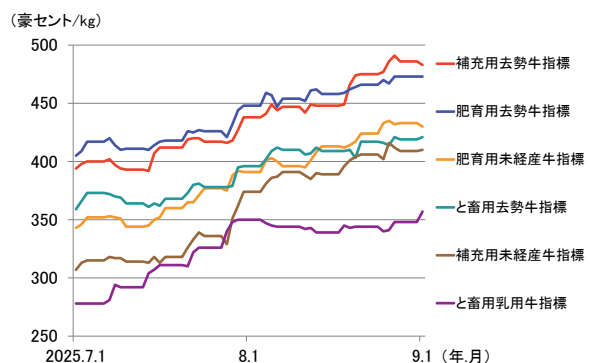
豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、7月以降上昇傾向で推移しており、直近8月28日時点では1キログラム当たり891豪セント（873円：1豪ドル＝97.98円^{（注1）}）と、この1カ月で100セント以上上昇している（図1）。

家畜市場における各指標を分析すると、主に農場の繁殖群に導入される雌牛を指す「補充用未經産牛指標」価格が7～9月にかけて最も伸びており、牛群再構築に伴う繁殖用雌牛の需要増が背景にあるとみられる（図2）。現地報道でも、春の好天に期待する生産者たちが一斉に牛を買い付けているとされている。また、海外市場からの堅調な牛肉需要は継続しており、米国向けの加工用牛肉

（90CL：赤身率90%のひき肉）は、8月第3週に1キログラム当たり11.08豪ドル（1086円）と7月に記録した最高値を更新している。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年8月末TTS相場。

図2 家畜市場における各指標の推移

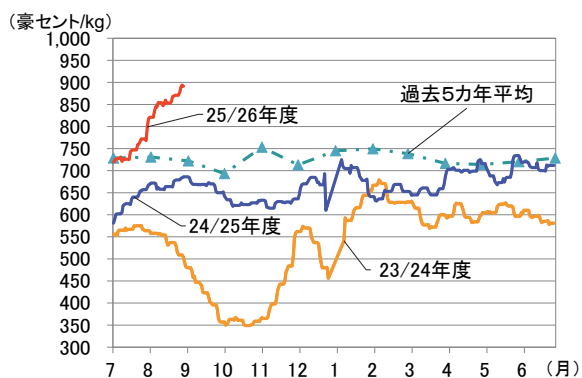


資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：生体重ベースの価格。

注2：一般的に肥育用はフィードロット向け、補充用は牧草肥育農家向け、と畜用は加工処理業者向けに販売される牛の指標。

図1 EYCI価格の推移



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

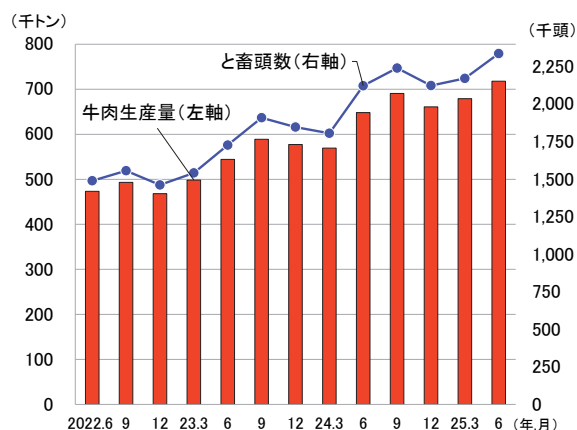
注1：年度は7月～翌6月。

注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格（枝肉重量ベース）。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

25年第2四半期、生産量が過去最高を記録

豪州統計局（ABS）が2025年8月に公表した統計によると、25年第2四半期（4～6月）の牛のと畜頭数は、四半期としては過去2番目の水準となる233万8200頭（前期比7.6%増）、牛肉生産量も同じく過去最高となる71万7891トン（同5.7%増）を記録した（図3）。堅調な輸出需要による牛肉加工のマージン拡大が記録更新に貢献した。雌牛と畜割合（FSR）は54.5%に上昇しており、引き続き雌牛の出荷が進んでいることを示している（図4）。他方で、前述の通り、これから

図3 牛肉生産量および畜頭数の推移

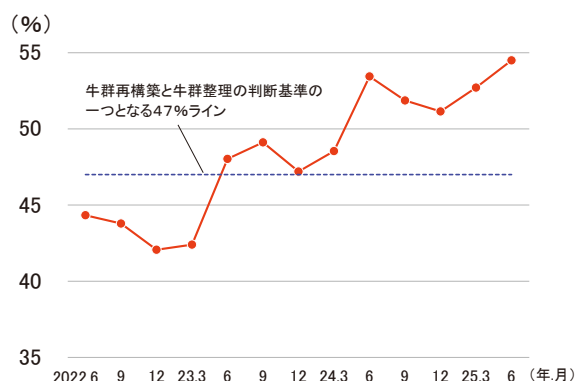


資料：ABS

注1：四半期ごとの数値。

注2：生産量は枝肉重量ベース、と畜頭数は子牛を除く。

図4 雌牛と畜割合（FSR）の推移



資料：ABS

注：四半期ごとの数値。

春にかけて若い繁殖雌牛の導入が加速すると見込まれることから、27年以降とされていた牛群が増加局面に転じるタイミングは早まる可能性がある。

25年7月の牛肉輸出量は15万トン超え、記録更新が続く

豪州農林水産省（DAFF）によると、2025年7月の牛肉輸出量は15万435トン（前年同月比15.7%増）とかなり大きく増加し、先月更新した単月での最高値を再び更新した（表）。現地報道によると、好調であった穀物肥育牛に加え、牧草肥育牛が大きく伸長したことが要因とされている。

7月の輸出量を輸出先別に見ると、米国と中国向けが顕著に増加した。米国向けは4万3056トン（同11.7%増）とかなり大きく増加しており、米国内の牛肉供給不足と輸入牛肉価格の上昇にもかかわらず、引き続き旺盛な需要が背景にある。また、ブラジル産牛肉に対しては8月7日から50%の相互関税が課されていることから、豪州産牛肉の競争力は

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2024年 7月	25年 7月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～7月)	前年同期比 (増減率)
米国	38,540	43,056	11.7%	246,121	26.9%
中国	16,249	30,925	90.3%	160,183	51.1%
日本	26,297	23,056	▲12.3%	140,818	▲12.1%
韓国	20,331	20,869	2.6%	122,395	11.5%
東南アジア	13,399	12,859	▲4.0%	79,960	4.2%
中東	3,475	3,425	▲1.4%	21,258	▲0.5%
EU	1,168	3,075	163.3%	13,257	68.8%
その他	10,539	13,170	25.0%	68,662	23.8%
輸出量合計	129,998	150,435	15.7%	852,654	16.6%

資料：DAFF

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。

注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つ（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ））。

より高まっている状況にある。

中国向けは3万925トン（同90.3%増）とほぼ倍増した。業界関係者は、市場アクセスの問題^{（注2）}などにより米国産牛肉が中国市場から消失し、豪州産牛肉がほぼ単独で中国市場の需要に応えている状態と分析している。一方で、今後は同国へのブラジル産牛肉

の流入が起こる可能性があることから、需要の変化には注視が必要としている。

（注2）詳細は『畜産の情報』2025年7月号「輸出需要を背景に若齢牛価格は今期最高値を記録、雌牛と畜割合は上昇」（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003783.html）をご参照ください。

（調査情報部 国際調査グループ）

ブラジル

25年1～7月の牛肉輸出は好調を維持

25年の牛肉生産量は前年比4.3%減の見込み

ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）によると、2025年は牛群の拡大期の始まりに伴い、雌牛を保留する傾向となることで、と畜頭数は減少すると見ている。その結果、同年の牛肉生産量は1052万5000トン（前年比4.3%減）と前年をやや下回り、牛飼養頭数は2億3196万頭（同0.3%減）と前年並みと見込まれている（図1）。同国の牛肉生産量は、直近3年間は増加してきたが、見込み通りとなれば4年ぶりの減少となる。

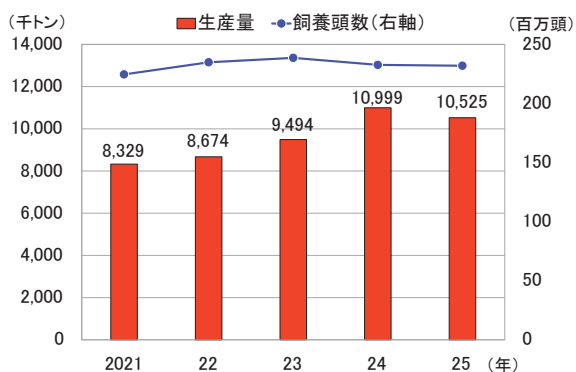
25年1～7月の牛肉輸出量は前年同期比13.6%増

ブラジル開発商工サービス省貿易局（SECEX）によると、2025年7月の牛肉輸出量は27万6879トン（前年同月比16.7%増）と単月では過去最大の輸出量を記録した（図2）。また、同年1～7月までの累計牛肉輸出量は、156万3591トン（前年同期比13.6%増）と過去最大を記録した前年をかなり大きく上回った（表）。

7月までの輸出量を輸出先別に見ると、輸出量全体の約5割を占める中国向けは79万70トン（同15.2%増）とかなり大きく増加した。また、米国向けは16万9176トン（同2.1倍）、メキシコ向けは6万7188トン（同2.9倍）と、それぞれ高い増加率となった。

ただし、米国向けの月別輸出量について、2～5月は各月とも前年同月比2.0～9.7倍と大幅な増加を記録したものの、6～7月は一転して同12.5～23.3%減となった。この背景には、米国のトランプ政権による関税政策が関係しているとみられている。この政策が実施される以前は、ブラジルから米国へ輸出される牛肉に対する関税は26.4%（6万

図1 牛肉生産量および牛飼養頭数



資料：CONAB（2025年6月13日公表）

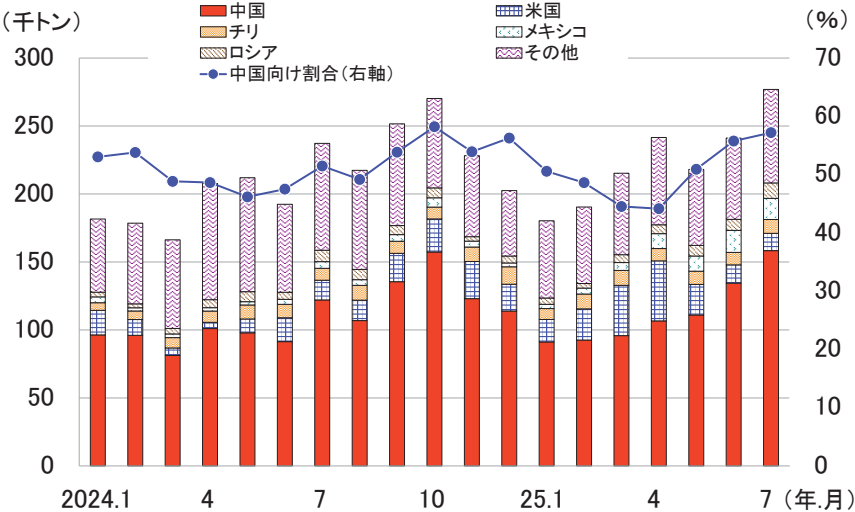
注1：牛肉生産量は枝肉重量ベース。

注2：25年は見込み値。

5000トンの低関税輸入枠消化後）が課されていたが、25年4月5日に相互関税として10%が追加され、さらに、同年8月6日には追加関税として40%が加算され、合計

76.4%の高い関税率となったことで、今後の米国向け牛肉の輸出量に影響が生じるとみられる。

図2 牛肉輸出量および中国向け輸出割合（右軸）



資料：SECEX
注1：中国向け輸出量および割合はいずれも香港を含まない。
注2：輸出量は製品重量ベース。

表 牛肉輸出の推移

国名	2024年1～7月			25年1～7月			前年比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/kg）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/kg）	輸出量	輸出額	単価
中国	686,004	3,046,037	4.44	790,070	4,080,523	5.16	15.2%	34.0%	16.3%
米国	82,020	395,027	4.82	169,176	861,473	5.09	106.3%	118.1%	5.7%
チリ	56,751	268,870	4.74	68,029	369,640	5.43	19.9%	37.5%	14.7%
メキシコ	22,817	103,856	4.55	67,188	363,600	5.41	194.5%	250.1%	18.9%
ロシア	37,362	140,322	3.76	47,594	220,736	4.64	27.4%	57.3%	23.5%
フィリピン	47,210	168,815	3.58	45,127	191,192	4.24	▲4.4%	13.3%	18.5%
サウジアラビア	33,391	159,332	4.77	33,252	166,521	5.01	▲0.4%	4.5%	5.0%
エジプト	40,018	160,585	4.01	29,902	131,024	4.38	▲25.3%	▲18.4%	9.2%
その他	370,242	1,741,154	4.70	313,253	1,714,724	5.47	▲15.4%	▲1.5%	16.4%
合計	1,375,815	6,183,998	4.49	1,563,591	8,099,432	5.18	13.6%	31.0%	15.2%

資料：SECEX
注1：HSコード0201（冷蔵牛肉）、0202（冷凍牛肉）の合計。
注2：輸出量は製品重量ベース。

25年肥育牛価格は緩やかな下降傾向

サンパウロ大学農学部応用経済研究所（CEPEA）によると、2025年8月25日時点の肥育牛価格は1キログラム当たり20.70

リアル（564円：1リアル=27.26円^{（注）}、前年同日比30.6%高）となった（図3）。

25年の肥育牛価格は、前年と比較すれば高水準であるものの、年初以降緩やかな下降傾向で推移している。これは、ブラジルで

発生した高病原性鳥インフルエンザの影響で鶏肉価格が下落したことにより国内需要が強まったことや、前述した米国による追加関税が発表されたことなどが要因とされている。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年8月末のTTS相場および現地参考為替相場（Selling）。



(調査情報部 原田 祥太)

豚 肉

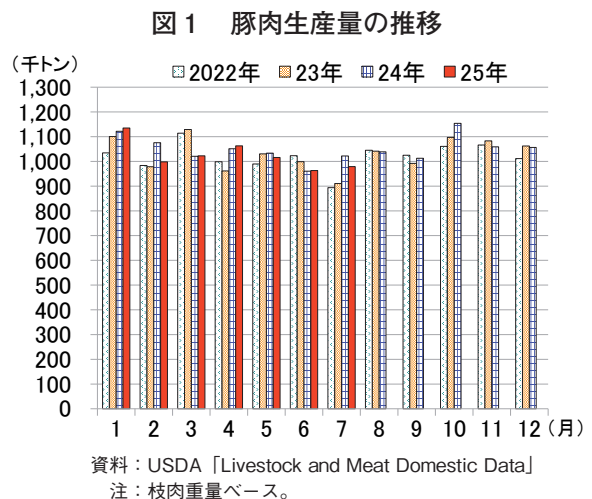
米 国

25年6月の豚肉輸出量は前年同月比5.2%増、メキシコ向けがけん引

25年7月の豚肉生産量、前年同月比4.2%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2025年7月の豚と畜頭数は、農場における豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）の発生件数の増加に伴い、1026万8400頭（前年同月比3.9%減）と前年同月をやや下回った。平均枝肉重量も減少（同0.5%減）したことで、同月の豚肉生産量は97万9100トン（同4.2%減）とやや減少した（図1）。

25年の豚肉生産量についてUSDAは、1258万6000トン（前年比0.2%減）と前年並みを予測している。

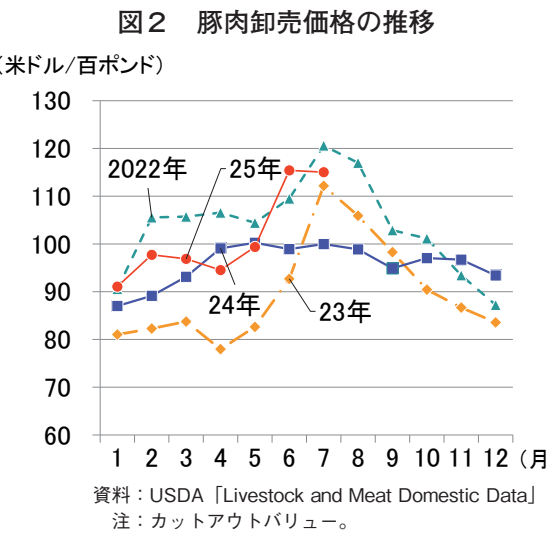


25年7月の豚肉卸売価格、前年同月比15.1%高

USDA/NASSによると、25年7月の豚肉卸売価格（カットアウトバリュー^{（注1）}）は、豚肉生産量の減少と堅調な需要から、100ポンド当たり115.03米ドル（1キログラム

当たり375円：1米ドル＝147.92円^(注2)、前年同月比15.1%高）と、前年同月をかなり大きく上回った（図2）。また、同月の肥育豚価格は、同78.2米ドル（同255円、同19.2%高）と大幅に上回った。

(注1) 各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。
(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年8月末TTS相場。



25年6月の豚肉輸出量、前年同月比5.2%増

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2025年6月の豚肉輸出量は25万200トン（前年同月比5.2%増）とやや増加した（表）。最大の輸出先となるメキシコ向けは、国内供給を上回る旺盛な需要から10万4200トン（同22.4%増）と大幅に増加した。日本向けは3万6600トン（同9.2%減）とかなりの程度減少した。中国向けは、同国による対米追加関税が一時的に引き下げられた^(注3) ことにより、1万3600トン（同5.7%減）とやや減少するにとどまった。25年の輸出量についてUSDAは、316万7000トン（前年比2.0%減）とわずかな減少を見込んでいる。

(注3) 2025年5月12日に公表された米中共同声明に基づいて、14日から125%の追加関税を34%に引き下げつつ、うち24%の執行を90日間停止することにより、同期間の追加関税を10%としている。なお、同年5月の中国向け豚肉輸出量は、前年同月比で87%減少した。

表 輸出先別豚肉輸出量の推移

(単位：千トン)

国名	2024年 6月	25年 6月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	25年 (1～6月)	
					前年同期比 (増減率)	
メキシコ	85.1	104.2	22.4%	41.7%	602.5	2.5%
日本	40.3	36.6	▲9.2%	14.6%	227.5	▲11.8%
韓国	24.5	21.3	▲13.3%	8.5%	167.8	▲11.5%
カナダ	19.4	15.6	▲19.4%	6.2%	98.8	▲14.7%
中国	14.5	13.6	▲5.7%	5.4%	84.5	▲4.9%
コロンビア	10.1	11.3	11.8%	4.5%	87.0	16.7%
ドミニカ共和国	8.1	9.2	13.5%	3.7%	58.3	▲8.8%
豪州	9.0	7.2	▲20.0%	2.9%	61.0	▲4.8%
その他	26.9	31.2	16.2%	12.5%	192.1	8.8%
合計	237.8	250.2	5.2%	100.0%	1,579.5	▲2.4%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注1：枝肉重量ベース。
注2：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

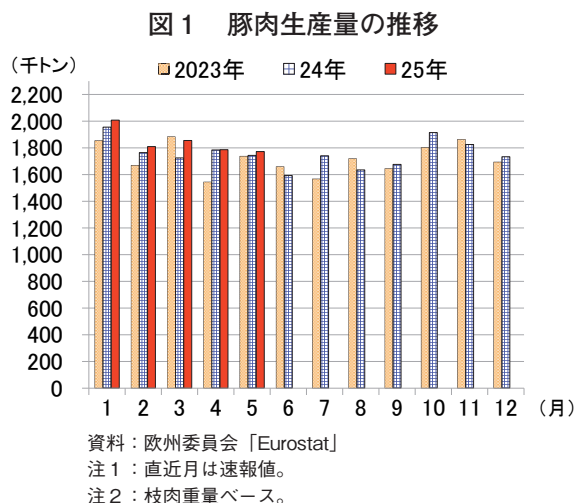
(調査情報部 小林 大祐)

豚肉生産量は増加を継続するも、輸出量はわずかに減少

25年5月の豚肉生産量、前年同月比1.7%増

欧州委員会によると、2025年5月の豚肉生産量（EU27カ国）は、177万2300トン（前年同月比1.7%増）とわずかに増加した（図1）。これは、豚と畜頭数が1826万8680頭（同0.0%減）と前年同月並みであったが、1頭当たりの枝肉重量が97.01キログラム

（同1.7%増）とわずかに増加したことが影響した。一方で、24年12月時点の繁殖用雌豚飼養頭数は1021万頭（同2.9%減）とわずかに減少しており、25年下期における豚肉生産量の減少につながる可能性がある。欧州委員会は25年7月29日に公表した農畜産物の短期的見通し^{（注1）}の中で、25年の豚肉生産量を前年比0.4%減の2115万414トンと予測している。



（注1）海外情報「欧州委員会、食肉の短期的需給見通しを公表（EU）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004185.html）をご参照ください。

主要生産国別の状況を見ると、スペインは堅調な輸出需要などを背景に1～5月の豚肉生産量は前年同期比6.5%増となった（表1）。また、デンマークは、同国最大手食肉企業のデニッシュクラウンが5月の出荷豚の取引価格を大幅に引き上げたことなどを背景に、同2.0%増となった。

表1 主要生産国別豚肉生産量

（単位：千トン）

国名	2024年 5月	25年 5月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～5月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	411	441	7.3%	2,281	6.5%
ドイツ	344	346	0.8%	1,814	2.2%
フランス	172	165	▲4.1%	875	▲1.0%
ポーランド	151	159	5.4%	827	4.8%
デンマーク	110	117	6.2%	591	2.0%
オランダ	123	108	▲12.3%	611	▲4.4%
イタリア	105	107	1.2%	561	5.5%
その他	328	330	0.6%	1,671	2.4%
合計	1,744	1,772	1.7%	9,231	2.9%

資料：欧州委員会「Eurostat」
注：枝肉重量ベース。

25年7月の豚枝肉卸売価格、5カ月ぶりに低下に転じる

欧州委員会によると、2025年7月の豚枝肉卸売価格（EU27カ国）は、前年同月比4.6%安の1キログラム当たり2.05ユーロ（355円：1ユーロ＝172.97円^{（注2）}）となった（図2）。同価格は5カ月ぶりに前月を下回った。

現地報道によると、豚肉生産量の増加やブラジルの輸出量の拡大によるEUの輸出量の

減少で域内の供給量が増加した中で、熱波による需要の減退および流通業者が夏季休暇需要向けの豚肉を7月以前に確保していたことによるものとみられている。ただし、20～24年の平均価格との比較では、依然として高値で推移している。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年8月末TTS相場。

25年上半期の豚肉輸出量、前年同期比0.6%減

欧州委員会によると、2025年6月のEU域外への豚肉輸出量（EU27カ国）は、15万3644トン（前年同月比3.3%減）とやや減少した（表2）。この結果、同年上半期の同輸出量は前年同期比0.6%減とわずかに減少した。主要輸出先別の状況を見ると、EU産豚肉の相場高や為替相場の影響から日本向け輸出量は同19.8%減と大幅に減少し、また、家畜疾病による輸出規制や英国産豚肉との価格差の縮小により、同上半期の英国向け豚肉輸出量は同5.2%減とやや減少した。

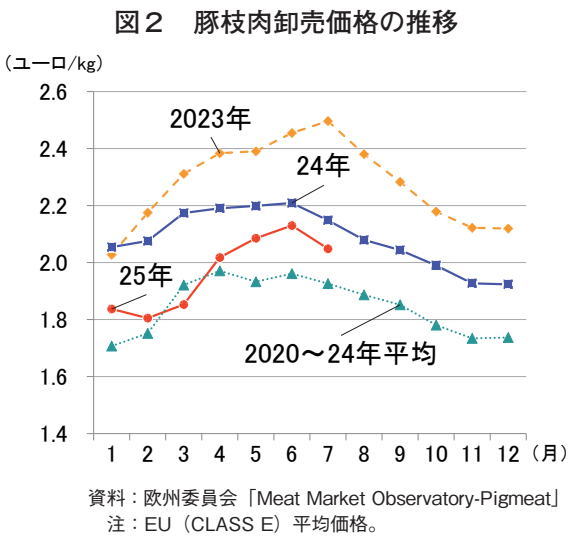


表2 輸出先別豚肉輸出量（EU域外向け）

（単位：トン）

国名	2024年 6月	25年 6月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～6月)	
					前年同期比 (増減率)
中国	39,529	39,456	▲0.2%	241,364	3.5%
英国	27,500	26,431	▲3.9%	157,008	▲5.2%
日本	25,325	18,493	▲27.0%	127,830	▲19.8%
韓国	14,953	15,002	0.3%	112,429	▲4.0%
フィリピン	9,546	8,790	▲7.9%	54,848	▲8.5%
豪州	5,940	5,116	▲13.9%	35,234	5.8%
その他	36,111	40,356	11.8%	274,999	14.1%
合計	158,904	153,644	▲3.3%	1,003,712	▲0.6%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコードは0203。

（調査情報部 渡辺 淳一）

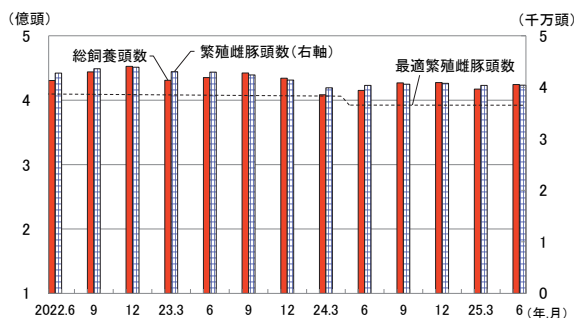
中国

生産能力調整措置などから子豚価格は下落傾向、前年同月比18.6%安

25年6月末の繁殖雌豚頭数、前期比で横ばい

中国農業農村部によると、2025年6月末時点の繁殖雌豚頭数は、4043万頭（前年同月比0.1%増、前期比0.1%増）と前期並みとなった（図1）。同頭数は、同部が最適な飼養水準（以下「最適水準」という）とする3900万頭を3.7%上回っている。

図1 豚飼養頭数の推移



資料：中国国家统计局

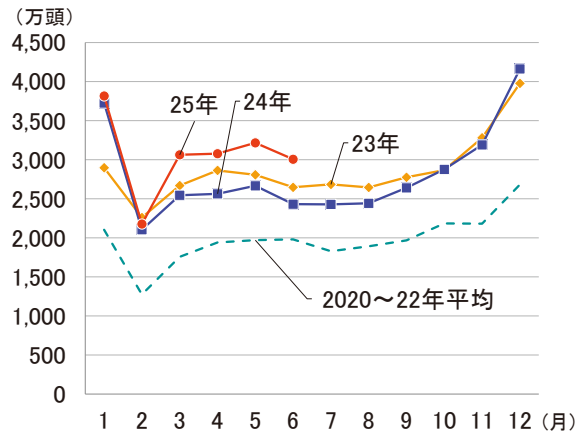
注1：四半期ごとの公表値。

注2：2024年3月1日に中国農業農村部は「豚生産能力管理調整方策」を改訂し、最適繁殖雌豚頭数を4100万頭程度から3900万頭程度に引き下げた。

25年6月の豚と畜頭数、前年同月比23.7%増

2025年6月の豚と畜頭数は、3006万頭（前年同月比23.7%増）と大幅に増加した（図2）。現地関係者は、25年上半期も継続して繁殖雌豚頭数が最適水準を上回ったことから肥育豚飼養頭数が増え、と畜頭数の増加につながったとしている。

図2 豚と畜頭数の推移



資料：中国農業農村部

注：年間2万頭以上処理すると畜場でのと畜頭数（全体のと畜頭数の約3割）。

25年7月の豚肉小売価格、前月比0.3%高

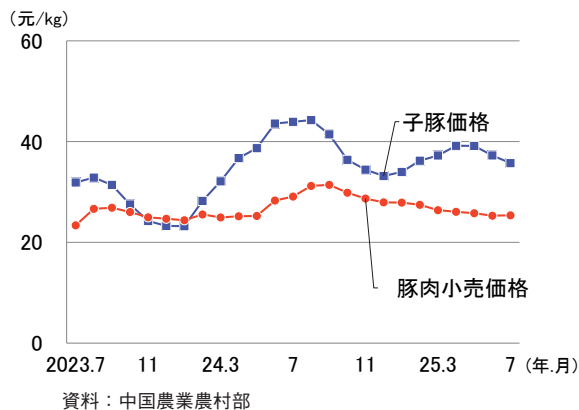
2025年7月の豚肉小売価格は、同年初めからの下落傾向が落ち着き、前月比0.3%高の1キログラム当たり25.4元（532円：1元＝20.93円^{（注1）}、前年同月比12.8%安）となった（図3）。この要因について、中国農業農村部が同年8月に公表した「農産物需給動向分析月報」（以下「月報」という）によると、夏季の高温により豚肉消費の伸び悩みは継続しているものの、前月に比べて豚のと畜頭数が減少したことが影響したとされている。

豚肉生産にも影響する同年7月の子豚価格は、前月比4.1%安の同35.7元（747円、前年同月比18.6%安）と、前月に続き下落している。月報によると、一部の農場では、生産能力調整^{（注2）}のため、繁殖用雌豚の飼養頭数を削減するとともに、子豚の売却を積極的に進めたためとされている。また、高温多湿

な地域では、肥育中の暑熱ストレスによる事故リスクの増加を懸念した肥育農家の導入意欲が低調であることも要因に挙げられている。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年8月末TTS相場。
(注2) 2025年7月17日に国务院新聞弁室は上半期の農業・農村経済の運営状況を報告する記者会見を実施し、養豚業について生産能力を調整する措置を発表した。詳しくは、海外情報「中国農業農村部、養豚と肉牛、酪農の動向について見解を公表（中国）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004184.html)をご参照ください。

図3 豚肉および子豚価格の推移



25年1～7月の豚肉輸入量、前年同期比4.5%増

2025年1～7月の豚肉輸入量は61万8152トン（前年同期比4.5%増）と、ブラジルを除くすべての主要輸入先で前年同期を上回った(表)。最も輸入量が多いスペインは、1～4月の累計輸入量が9.3万トン（同1.2%増）と前年同期をわずかに上回る程度であったものの、5月以降は、前年同期を大幅に上回るペースで増加し、7月には累計18.2万トン（同13.2%増）となった。要因として、同年4月に中国はスペインと「包括的戦略的パートナーシップ強化行動計画」を締結し、農産物の貿易拡大の推進に合意したことによる影響が考えられる。

表 主要輸入先別豚肉輸入量の推移

(単位：万トン)

国名	2023年	24年	25年 (1～7月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	37.8	29.0	18.2	13.2%
ブラジル	40.2	23.7	10.6	▲31.8%
カナダ	13.2	7.6	4.5	10.8%
米国	12.3	7.0	3.7	5.4%
オランダ	12.0	7.5	4.8	14.1%
チリ	8.4	6.5	4.3	14.9%
その他	30.1	23.7	15.7	30.6%
合計	154.1	105.1	61.8	4.5%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは0203。

(調査情報部 山崎 葵)

鶏 肉

米 国

25年の鶏肉輸出量、ブラジルとの競争激化により、前年比3.0%減の見込み

25年7月の鶏肉生産量、前年同月比1.8%増

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2025年7月の鶏肉生産量は、処理羽数と生体重量の増加により、188万1000トン（前年同月比1.8%増）とわずかに増加

した。また、25年1～7月の鶏肉生産量は1251万7000トン（前年同期比1.6%増）とわずかに増加した（表1）。同年の鶏肉生産量についてUSDAは、堅調な^ふ孵化数や飼料コストの低下から、前月予測から3万3000トン上方修正し、2131万6000トン（前年比1.6%増）と予測している。

表1 鶏肉生産量の推移

項目	2025年7月		24年 (1～7月)	25年 (1～7月)	前年同期比 (増減率)
		前年同月比 (増減率)			
生産量（千トン）	1,881	1.8%	12,318	12,517	1.6%
処理羽数（百万羽）	833	0.9%	5,509	5,536	0.5%
生体重量（キログラム/羽）	2.99	1.2%	2.96	2.99	1.1%

資料：USDA「Livestock and Meat Domestic Data」

注1：連邦食肉検査済みのもの。

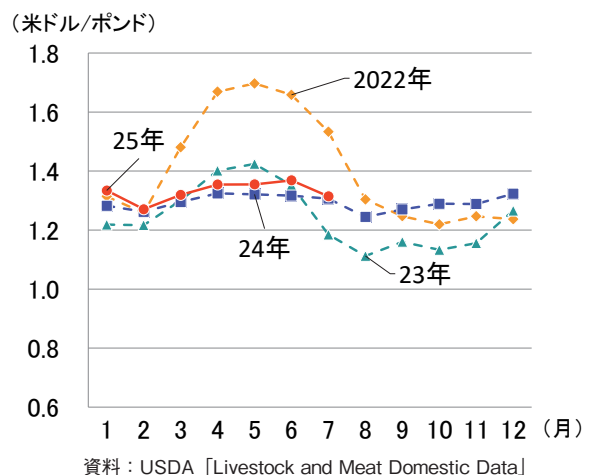
注2：生産量は可食処理ベース（骨付き）。

25年7月の鶏肉卸売価格、前年同月比0.6%高

USDA/ERSによると、2025年7月の鶏肉卸売価格は、1ポンド当たり1.31米ドル（1キログラム当たり429円：1米ドル＝147.92円^{（注）}、前年同月比0.6%高）とわずかに上昇した（図1）。鶏肉生産量は前年同月比で増加しているものの、食肉全般が高値で推移する中、比較的安価な鶏肉の需要が高まったことが上昇につながったとみられる。同月末の冷凍鶏肉在庫量は、国内需要の高まりなどを背景に生産量が増加する中で、輸出

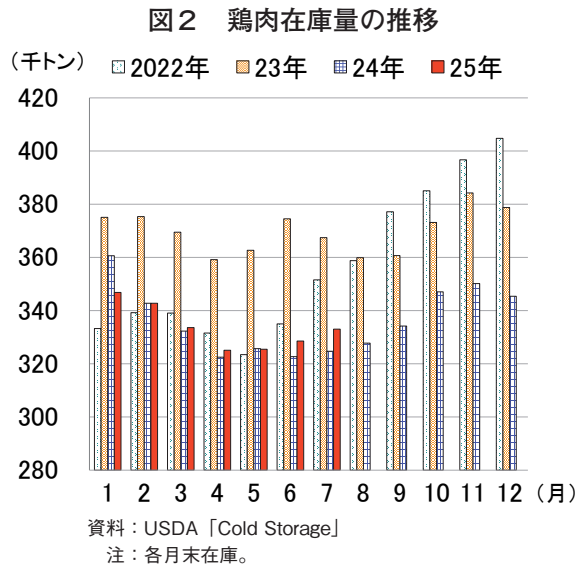
量が減少したことなどから33万3025トン（同2.6%増）とわずかに増加した（図2）。

図1 鶏肉の卸売価格の推移



(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年8月末TTS相場。

25年6月の鶏肉輸出量、前年同月比6.2%減



USDA/ERSによると、2025年6月の鶏肉輸出量は23万4750トン（前年同月比6.2%減）とかなりの程度減少し、25年1～6月累計でも145万4420トン（前年同期比3.6%減）とやや減少した（表2）。地理的優位性から輸出量の約4分の1を占めるメキシコ向けは、ブラジル産の台頭により25年1～6月累計では35万2654トン（同1.7%減）とわずかに減少した。

25年の鶏肉輸出量についてUSDAは、ブラジルが輸出量を増やしていることなどから、世界の鶏肉市場における競争が激化すると見込み、前年比3.0%減の294万トンとしている。

表2 輸出先別鶏肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2024年 6月	25年 6月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	25年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)
メキシコ	53,639	59,920	11.7%	25.5%	352,654	▲1.7%
フィリピン	12,991	19,693	51.6%	8.4%	99,441	45.7%
台湾	14,194	16,219	14.3%	6.9%	98,826	▲1.0%
キューバ	20,509	15,706	▲23.4%	6.7%	115,721	▲8.1%
カナダ	15,343	15,541	1.3%	6.6%	88,422	23.2%
グアテマラ	10,458	10,941	4.6%	4.7%	66,687	▲2.9%
ハイチ	5,962	7,527	26.2%	3.2%	35,182	21.8%
ガーナ	5,893	5,739	▲2.6%	2.4%	36,430	27.6%
ベトナム	6,748	5,200	▲22.9%	2.2%	45,297	▲1.9%
その他	104,489	78,265	▲25.1%	33.3%	515,760	▲15.8%
合計	250,225	234,750	▲6.2%	100.0%	1,454,420	▲3.6%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」

注1：製品重量ベース。

注2：もみじ（鶏足）を除く。

(調査情報部 大西 未来)

ブラジル

25年 1～7月の鶏肉輸出量はHPAIの影響により減少

25年の鶏肉生産量は前年比1.4%増の見込み

ブラジル地理統計院（IBGE）によると、2025年 1～3月の鶏肉生産量は347万2000トン（前年同期比2.5%増）と、第1四半期時点では過去最大を記録した前年をわずかに上回った。

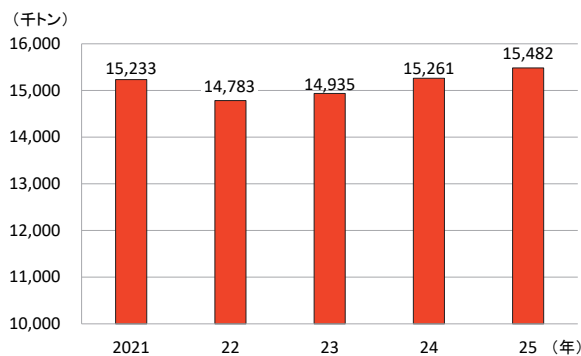
また、ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）によると、25年のブラジルの鶏肉生産量は1548万2000トン（前年比1.4%増）と前年をわずかに上回ると見込まれている（図1）。これは、国内外の堅調な需要が主な要因と考えられている。

25年 1～7月鶏肉輸出量は前年同期比2.4%減

ブラジル開発商工サービス省貿易局（SECEX）によると、2025年 1～7月の鶏肉輸出量は、275万2629トン（前年同期比2.4%減）と前年同期をわずかに下回った（表）。

ブラジルでは、25年5月15日に家きん飼養施設で高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の感染が確認されて以降、複数の州で感染が確認されている。HPAIの発生前後の輸出量に着目すると、25年 1～4月までの輸出量

図1 鶏肉生産量



資料：CONAB（2025年6月13日公表）
注：25年は見込み値。

表 輸出先別鶏肉輸出量および輸出額

国名	2024年（1～7月）			25年（1～7月）			前年同期比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/kg）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/kg）	輸出量	輸出額	単価
アラブ首長国連邦	278,227	560,019	2.01	282,051	560,976	1.99	1.4%	0.2%	▲1.2%
日本	258,550	498,412	1.93	239,914	486,424	2.03	▲7.2%	▲2.4%	5.2%
サウジアラビア	232,206	490,353	2.11	233,366	568,834	2.44	0.5%	16.0%	15.4%
中国	336,529	744,372	2.21	227,433	543,677	2.39	▲32.4%	▲27.0%	8.1%
南アフリカ	195,374	106,605	0.55	134,631	87,574	0.65	▲31.1%	▲17.9%	19.2%
メキシコ	107,932	261,874	2.43	123,571	298,494	2.42	14.5%	14.0%	▲0.4%
フィリピン	140,830	119,783	0.85	123,404	105,322	0.85	▲12.4%	▲12.1%	0.3%
シンガポール	83,279	158,083	1.90	90,736	164,742	1.82	9.0%	4.2%	▲4.4%
その他	1,187,895	2,039,906	1.72	1,297,524	2,128,474	1.64	9.2%	4.3%	▲4.5%
合計	2,820,822	4,979,408	1.77	2,752,629	4,944,517	1.80	▲2.4%	▲0.7%	1.8%

資料：SECEX
注1：HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。
注2：輸出量は製品重量ベース。

は同9.3%増であったが、5～7月の輸出量は同17.1%減となっている。

輸出先別に見ると、25年はアラブ首長国連邦と日本向けが輸出量の上位となっている。これは、HPAIの発生により、いくつかの国はブラジル全土、または発生した州からの輸入を停止したのに対し、両国は輸入を停止する範囲を発生した市に限定する対応をとったためとみられる。現在は、さまざまな国が順次輸入制限を撤廃していることで、今後の輸出量に変化が出てくるとみられる。

25年の鶏肉卸売価格は下落に転じる

サンパウロ大学農学部応用経済研究所（CEPEA）によると、直近（2025年8月22日時点）のブラジルの鶏肉卸売価格（サンパウロ州）は、1キログラム当たり7.25レアル（198円：1レアル＝27.26円^{（注）}、前年同日比0.7%高）となった（図2）。25年に入り同価格は上昇傾向で推移していたが、HPAIの発生により生産量の3割を占める

輸出に悪影響が出たことで下落に転じた。5月下旬から始まった下落は6月末まで続いたが、それ以降は輸出の再開などから前年並みの水準を維持している。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年8月末のTTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

図2 サンパウロ州鶏肉卸売価格（丸鶏・冷蔵）の日毎の推移



（調査情報部 原田 祥太）

中国

25年の鶏肉生産量、前年比1.0%増とわずかに増加の見込み

25年上半期の家きん肉生産量、前年同期比7.4%増

中国国家统计局によると、2025年上半期（1～6月）の家きん総出荷羽数は81億4000万羽（前年同期比7.0%増）、同生産量は1270万トン（同7.4%増）と、いずれも前年同期を上回った。また、同年6月末の家きん飼養羽数は63億3000万羽（前年同月比0.2%増）となった。

米国農務省海外農業局（USDA/FAS）の直近見通しによると、25年の中国の鶏肉生産量^{（注1）}は1550万トン（前年比1.0%増）と前年からわずかな増加が見込まれている（表1）。

（注1）同国では、家きん肉生産量のうち約6割が鶏肉であるとされている。鶏肉の生産割合については『畜産の情報』2020年5月号「中国の肉用鶏産業の現状と鶏肉需給の見通し」（<https://www.alic.go.jp/content/001177622.pdf>）P.102をご参照ください。

表1 中国の鶏肉需給

(単位：万トン)

項目	2022年	23年	24年	25年 (予測)
生産量	1,430	1,480	1,535	1,550
輸入量	63	76	48	43
輸出量	53	55	77	80
国内消費量	1,440	1,500	1,506	1,513

資料：USDA/FAS

注：もみじ（鶏足）は含まない。

25年8月の鶏肉市場価格、前年同期比6.1%安

中国農業農村部によると、2025年8月第3週の鶏肉市場価格は1キログラム当たり22.4元（469円：1元＝20.93円^(注2)、前年同期比6.1%安）と前年同期をかなりの程度下回った（図）。

価格下落の要因について、中国農業農村部

は25年8月に公表した「農産物需給動向分析月報」の中で、夏季の高温による家きんの死亡リスクの増加を懸念した生産者が出荷を早め、市場の需要を上回って供給量が増加したことを挙げている。

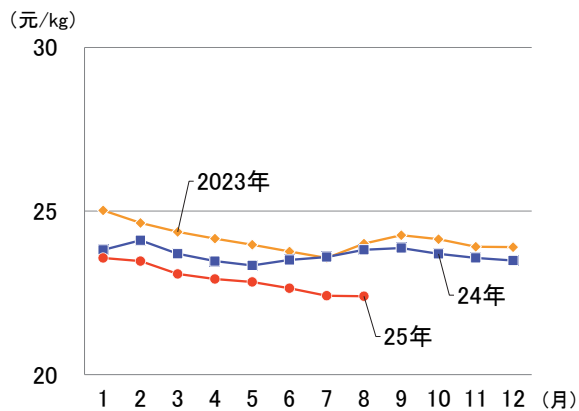
(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年8月末TTS相場。

25年1～7月の鶏肉輸入量、前年同期比9.1%減

2025年1～7月の冷凍鶏肉輸入量は、47万8851トン（前年同期比9.1%減）と前年同期をかなりの程度下回った（表2）。

主な輸入先は、ブラジル28.8万トン（同9.7%減）、ロシア8.7万トン（同25.0%増）、タイ6.9万トン（同13.3%増）、米国1.4万トン（同66.8%減）であった。ブラジルからの輸入量の減少要因として、同年5月にブラジルで高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）が発生したことにより、中国政府が同国からの家きん

図 鶏肉市場価格の推移



資料：中国農業農村部

注：2025年8月の市場価格は第1週から第3週までの平均値。

表2 輸入先別冷凍鶏肉輸出量の推移

(単位：万トン)

国名	2021年	22年	23年	24年	25年 (1～7月)	前年同期比 (増減率)
ブラジル	65.1	55.3	67.9	55.8	28.8	▲9.7%
ロシア	11.8	12.7	12.7	12.8	8.7	25.0%
タイ	10.4	8.5	11.6	11.3	6.9	13.3%
米国	44.0	34.3	24.3	6.1	1.4	▲66.8%
その他	14.3	18.4	11.7	6.6	2.2	▲39.8%
合計	145.6	129.2	128.3	92.7	47.9	▲9.1%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは020714。

および家きん類の輸入を停止したことが挙げられる。これにより、その代替先としてロシアやタイからの輸入が増加したとみられる。

25年 1 ～ 7 月の鶏肉調製品輸出量、前年同期比17.0%増

2025年 1 ～ 7 月の鶏肉調製品の輸出量は、23万2282トン（前年同期比17.0%増）と

前年同期を大幅に上回った（表 3）。主な輸出先を見ると、引き続き日本向けが首位となったが、英国やオランダ向けも大幅に増加している。中国農業農村部が 4 月に公表した「中国農業展望報告」によると、同年の家きん肉の輸出量は96万トン（前年比4.3%増）と見込まれており、同年 7 月までの鶏肉調製品の輸出は予測を上回るペースで増加している。

表 3 輸出先別鶏肉調製品輸出量の推移

（単位：万トン）

国名	2021年	22年	23年	24年	25年 (1～7月)	前年同期比 (増減率)
日本	18.0	19.3	17.2	17.2	11.6	8.6%
香港	3.7	3.8	3.8	3.8	2.6	8.9%
英国	0.8	1.8	2.5	2.5	2.7	31.9%
オランダ	1.4	1.8	2.0	2.0	2.4	50.2%
その他	3.0	3.7	4.4	4.4	4.0	24.9%
合計	27.0	30.5	30.0	30.0	23.2	17.0%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは160232。

（調査情報部 山崎 葵）

牛乳・乳製品

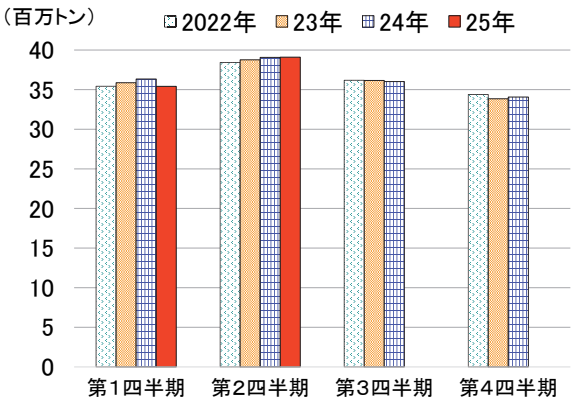
E U

25年上半期の乳製品輸出量、チーズと脱脂粉乳は前年同期をわずかに上回る

25年上半期の生乳出荷量は前年同期比1.2%減

欧州委員会によると、2025年 6 月の生乳出荷量（EU27カ国）は1265万トン（前年同月比0.1%減）となり、同年上半期（1 ～ 6 月）までの生乳出荷量は前年同期比1.2%減と前年同期をわずかに下回った（図 1、表 1）。この要因として、（1）堅調な牛肉価格や環境規制の強化などを背景とした乳用経産牛飼養頭数の減少、（2）うるう年であった

図 1 生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」
注 1：速報値。
注 2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

前年に比べて少ない搾乳日数－が挙げられる。なお、第2四半期は、一部の加盟国を除いた飼料生産と放牧に適した天候の継続により、同0.1%増と前年同期並みとなった。同委員会は、25年7月29日に公表した農畜産物の短期的見通し^(注1)の中で、良好な天候が継続する場合の25年の生乳出荷量を前年比

0.2%増の前年並みと予測している。一方で、口蹄疫やブルータングなど家畜疾病の流行による生乳出荷量の低下も注視が必要としている。

(注1) 海外情報「欧州委員会、生乳・乳製品の短期的需給見通しを公表(EU)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004186.html) をご参照ください。

表1 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：千トン)

国名	2024年 6月	25年 6月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)
ドイツ	2,762	2,704	▲2.1%	16,206	▲2.5%
フランス	1,990	2,009	0.9%	12,309	▲1.1%
ポーランド	1,154	1,164	0.8%	6,932	▲0.2%
オランダ	1,143	1,136	▲0.6%	6,925	▲1.7%
アイルランド	1,062	1,114	4.9%	4,790	7.0%
イタリア	1,078	1,061	▲1.6%	6,580	▲3.9%
その他	3,470	3,463	▲0.2%	20,763	▲1.3%
合計	12,659	12,650	▲0.1%	74,504	▲1.2%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

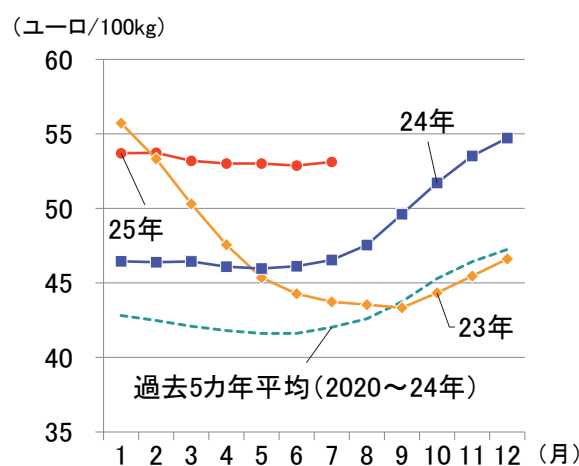
注3：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。

25年7月の生乳取引価格は前年同月比14.1%高

欧州委員会によると、2025年7月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり53.12ユーロ（1キログラム当たり91.9円：1ユーロ＝172.97円^(注2)、前年同月比14.1%高）と15カ月連続で前年同月を上回った（図2）。同価格は、高水準で推移するバターなどの乳製品価格にけん引される形で好調を維持している。同委員会は前述の見通しの中で、生乳価格が記録的な高水準で推移することにより、酪農家の収支改善につながると見込んでいる。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年8月末TTS相場。

図2 生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

注1：直近月は推定値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

25年上半期の乳製品輸出品、チーズと脱脂粉乳は増加

欧州委員会によると、2025年上半期（1～6月）のEU域外向け乳製品輸出品は、チーズ（前年同期比1.2%増）と脱脂粉乳（同2.6%増）がわずかに増加した一方、バター（同2.1%減）と全粉乳（同22.9%減）はいずれも減少した（表2）。

バターや全粉乳は、価格競争力の低下や植物性油脂添加粉乳との競合により輸出量が

減少した。一方、脱脂粉乳は、インドネシア、フィリピン、サウジアラビア、ベトナム向けなどの輸出量が前年から大きく回復するなど、国内生産の拡大を図るアルジェリア向け輸出の大幅減を補うための輸出先の多角化が寄与している。現地報道によると、主要輸出先であるサウジアラビアでは、人口増加を背景に育児用粉乳の需要が増加し、また、同国政府が食料安全保障に向け、高品質な輸入粉乳の安定的な確保を図っているとされる。

表2 主な乳製品の輸出品の推移

（単位：トン）

バター				脱脂粉乳			
輸出先	2024年 （1～6月）	25年 （1～6月）	前年同期比 （増減率）	輸出先	24年 （1～6月）	25年 （1～6月）	前年同期比 （増減率）
米国	24,433	31,634	29.5%	アルジェリア	99,310	58,620	▲41.0%
英国	22,619	23,845	5.4%	インドネシア	16,848	27,177	61.3%
中国	9,177	8,124	▲11.5%	フィリピン	22,268	26,293	18.1%
韓国	6,563	6,585	0.3%	サウジアラビア	22,488	26,147	16.3%
サウジアラビア	5,615	4,680	▲16.7%	ベトナム	11,520	24,925	116.4%
アラブ首長国連邦	3,497	2,928	▲16.3%	エジプト	27,956	22,318	▲20.2%
台湾	2,429	2,500	2.9%	ナイジェリア	14,147	20,439	44.5%
日本	2,664	2,140	▲19.7%	マレーシア	12,348	20,032	62.2%
その他	43,851	35,829	▲18.3%	その他	163,464	174,545	6.8%
合計	120,848	118,265	▲2.1%	合計	390,349	400,496	2.6%

チーズ				全粉乳			
輸出先	24年 （1～6月）	25年 （1～6月）	前年同期比 （増減率）	輸出先	24年 （1～6月）	25年 （1～6月）	前年同期比 （増減率）
英国	210,560	226,075	7.4%	オマーン	26,427	25,400	▲3.9%
米国	65,959	67,065	1.7%	クウェート	8,208	7,983	▲2.7%
日本	40,987	41,038	0.1%	英国	7,603	6,912	▲9.1%
スイス	37,870	37,958	0.2%	中国	7,813	5,314	▲32.0%
韓国	26,436	30,963	17.1%	ドミニカ共和国	3,934	3,748	▲4.7%
サウジアラビア	21,066	20,240	▲3.9%	セネガル	3,143	2,697	▲14.2%
ウクライナ	16,573	19,670	18.7%	レバノン	2,639	2,481	▲6.0%
中国	17,598	14,046	▲20.2%	サウジアラビア	4,247	2,381	▲43.9%
その他	243,449	231,730	▲4.8%	その他	50,364	31,279	▲37.9%
合計	680,498	688,785	1.2%	合計	114,378	88,195	▲22.9%

資料：「Global Trade Atlas」
注1：HSコードは、バターが0405.10、脱脂粉乳が0402.10、チーズが0406、全粉乳が0402.21と0402.29。
注2：四捨五入により輸出先国の計と合計欄は一致しないことがある。

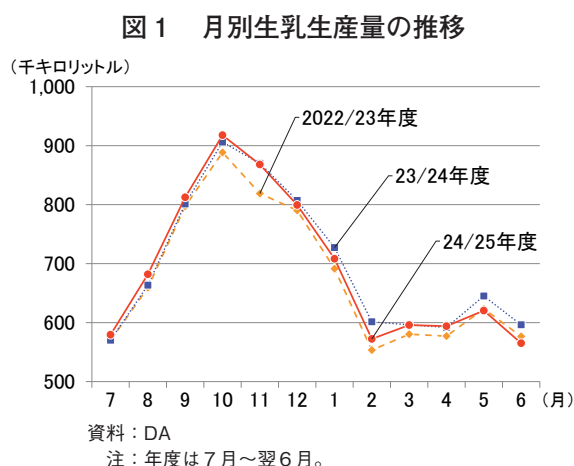
（調査情報部 渡辺 淳一）

豪州

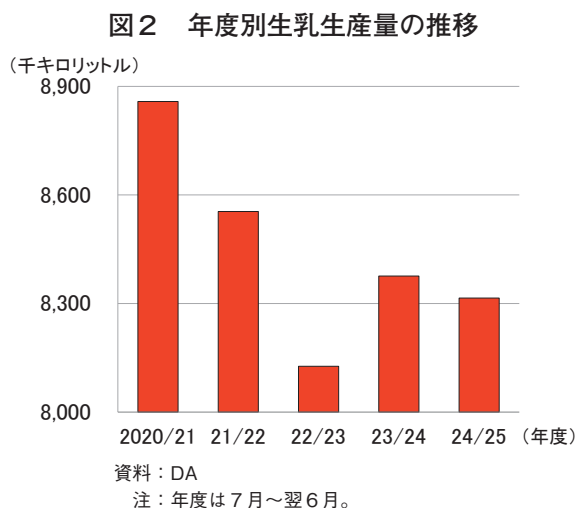
24/25年度の生乳生産量はわずかに減少、主要乳製品の輸出量は増加

24/25年度の生乳生産量、前年度比0.7%減

デイリー・オーストラリア（DA）が2025年8月に公表した「Milk Production Reports」によると、同年6月の生乳生産量は前年同月比5.2%減の56万5109キロリットル（58万2062トン相当）となった（図1）。



この結果、24/25年度（7月～翌6月）の生乳生産量は、前年度比0.7%減の831万5020キロリットル（856万4471トン相当）とわずかに減少した（図2）。



25/26年度の生乳生産量についてDAは、5月に公表した「Situation and Outlook」の中で、24/25年度から続く干ばつなどの天候不良と、それに起因して価格が高騰する牧草などの生産コストの増加による酪農家の廃業などの要因により、最大で前年度比2%減少と予測している。

一方、米国農務省海外農業局（USDA/FAS）が7月に公表した「Dairy: World Markets and Trade」では、25年（1～12月）の豪州の生乳生産量を860万トン（834キロリットル相当、前年比0.8%減）と見込んでいる。この理由としてUSDA/FASは、豪州の主要な酪農地帯であるビクトリア州での干ばつ傾向による牧草の生育悪化と乾牧草のコスト上昇から乳用牛の淘汰が進み、生乳生産量が減少する一方、牧草不足を補うための配合飼料の給与により1頭当たり乳量が緩やかに増加するためとしている。

24/25年度の主要乳製品の輸出量は増加

DAが2025年8月に公表した「Dairy Export Summary」によると、25年6月の主要乳製品4品目の輸出量は、いずれも前年同月から減少した。一方、24/25年度の累計輸出量は、同年度上半期（24年7～12月）の輸出量が多かったことから、いずれも前年度から増加した（表、図3）。

脱脂粉乳は、輸出量全体に占める割合が高い中国向けが大幅に減少したものの、ベトナムやマレーシアなど東南アジア向けが大幅に増加したことを受け、前年度比10.7%増とかなりの程度増加した。全粉乳は、輸出量

全体に占める割合が高い中国、タイおよびアラブ首長国連邦向けが大きく増加したことを受け、同28.9%増と大幅に増加した。バターおよびバターオイルは、輸出量全体に占める割合が高い中国と韓国向けが減少したものの、マレーシアやタイなど東南アジア向けが

大幅に増加したほか、メキシコや台湾などからの引き合いも強かったことを受け、同36.4%増と大幅に増加した。また、チーズは、主要輸出先である日本と中国向けだけでなく、東南アジア向けなども堅調に推移したことを受け、同12.2%増とかなり大きく増加した。

表 乳製品輸出量の推移

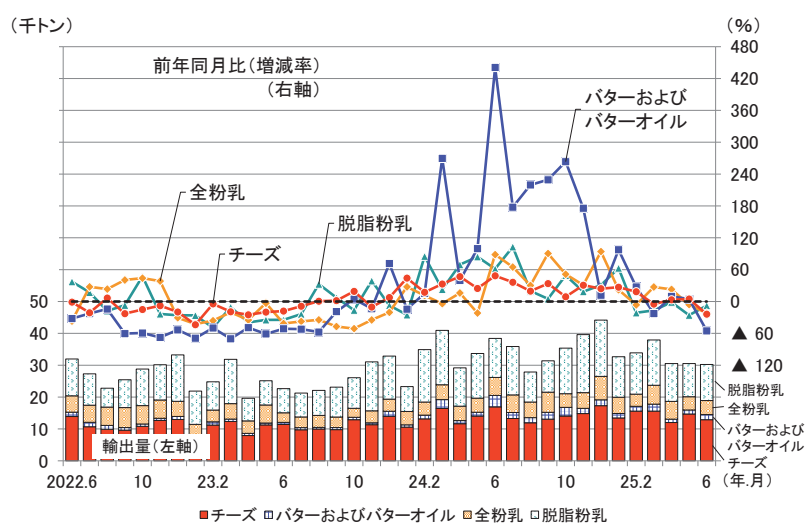
(単位：トン)

品目	2024年 6月	25年 6月	前年同月比 (増減率)	24/25年度 (7月～翌6月)	前年度比 (増減率)
脱脂粉乳	12,248	11,307	▲7.7%	158,126	10.7%
全粉乳	5,650	4,403	▲22.1%	62,351	28.9%
バターおよびバターオイル	3,592	1,609	▲55.2%	20,828	36.4%
チーズ	16,928	12,906	▲23.8%	168,730	12.2%

資料：DA

注：製品重量ベース。

図3 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：DA

注：製品重量ベース。

(調査情報部 平山 宗幸)

N Z

乳製品国際相場を踏まえ24/25年度の生産者支払乳価を引き上げ

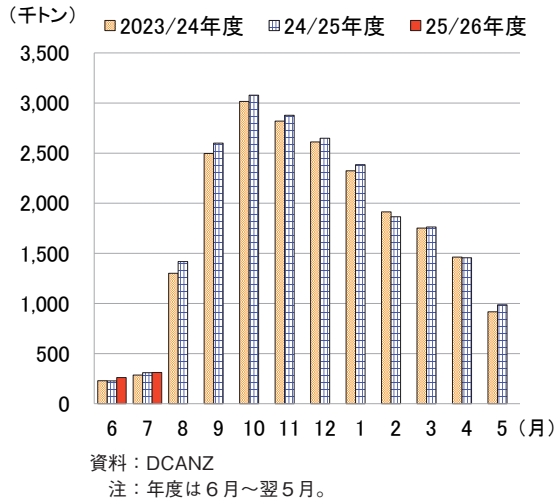
25年7月の生乳生産量、前年同月比0.6%増

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2025年7月の生乳生産量は31万

2000トン（前年同月比0.6%増）とわずかに増加した（図1）。この要因についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、NZ乳業大手フォンテラ社が提示した25/26年度

(6月～翌5月)の生産者支払乳価が高い水準であったため、酪農家の生産意欲の向上につながったことを挙げている。

図1 生乳生産量の推移



また、今後の生乳生産の見通しについてNZXは、牧草の生育状況は地域によってばらつきが出る可能性があるものの、高い乳価を背景として豊富に輸入飼料などを確保することが可能となり、良好な生産環境が持続すると予想している。

25年7月の脱脂粉乳およびチーズの輸出量減少

ニュージーランド統計局 (Stats NZ) によると、2025年7月の乳製品輸出量は、主要4品目のうち全粉乳、バターおよびバターオイルでいずれも前年同月を上回った(表、図2)。品目別に見ると、全粉乳は中国向けが、

表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

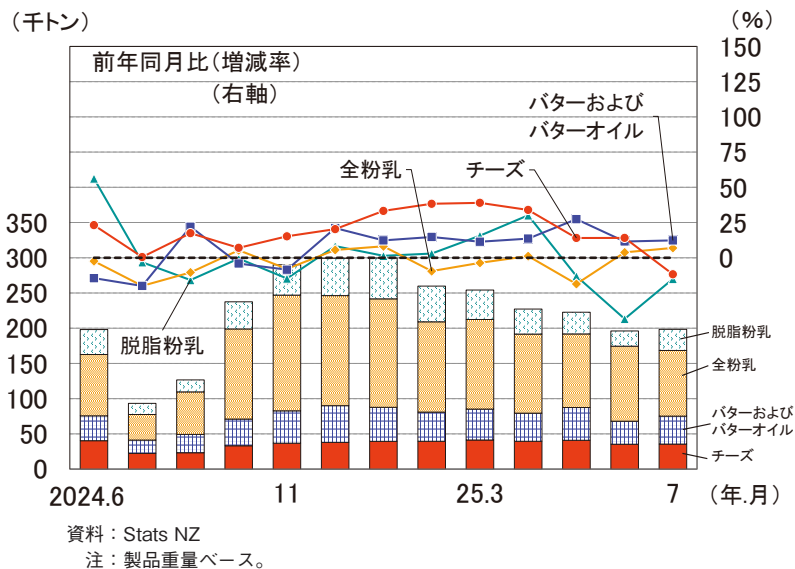
品目	2024年 7月	25年 7月	前年同月比 (増減率)
脱脂粉乳	35,340	30,031	▲15.0%
全粉乳	87,084	93,151	7.0%
バターおよびバターオイル	35,323	39,670	12.3%
チーズ	40,290	35,567	▲11.7%

資料：Stats NZ

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出量および前年同月比(増減率)の推移



バターおよびバターオイルはサウジアラビア向けがそれぞれ伸びたことで、輸出量が増加した。一方、脱脂粉乳は中国、インドネシア向けが、チーズは中国向けが、いずれも減少したことで輸出量が減少した。

25年 8 月 19 日の GDT 平均価格、全粉乳が上昇

2025年 8 月 19 日開催の GDT^(注1) 平均取引価格は、全粉乳が前回開催時（25年 8 月 5 日）を上回った（図 3）。北東アジア、中東、中南米からの需要が増加したため、全乳製品の平均取引価格は 1 トン当たり 4291 米ドル（63 万 4725 円、1 米ドル＝147.92 円^(注2)、前回比 1.0% 高）となった。

このような中、フォンテラ社は 25 年 8 月 21 日、24/25 年度の生産者支払乳価を生乳の固形分^(注3) 1 キログラム当たり 0.15 NZ

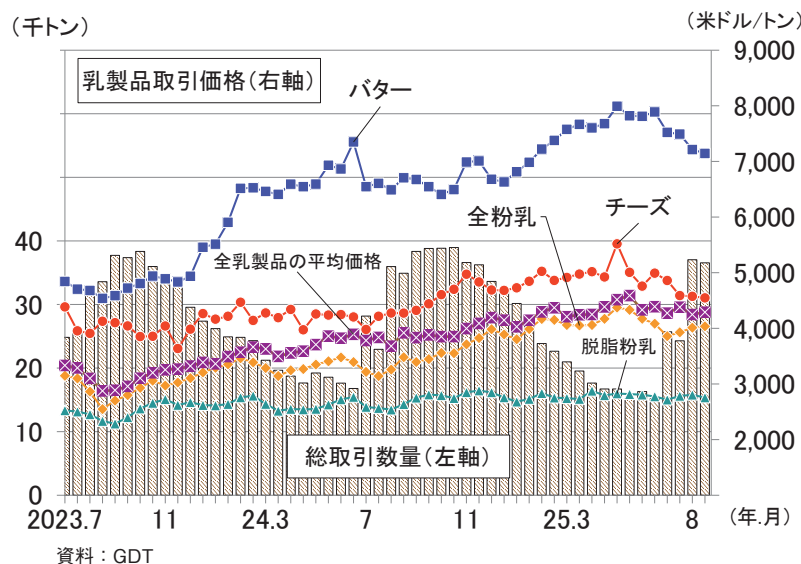
ドル（13 円：1 NZ ドル＝88.46 円^(注2)）引き上げ、同 10.15 NZ ドル（898 円）にすると発表した。また、25/26 年度の同乳価については 10.00 NZ ドル（885 円）を維持するとしつつも、同社のハレル最高経営責任者は、世界市場の不確実性などのリスクがあることを認識しており、当初、25/26 年度の同乳価を同 8.00 ～ 11.00 NZ ドル（708 ～ 973 円）と幅広い予想範囲で設定していたが、最近の GDT 平均価格が堅調に推移していることから、予測範囲を同 9.00 ～ 11.00 NZ ドル（796 ～ 973 円）に修正すると説明している。

（注 1）グローバルデリートレード。月 2 回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。

（注 2）三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の 2025 年 8 月末 TTS 相場。

（注 3）乳脂肪分および乳たんぱく質。

図 3 GDT の乳製品取引価格と総取引数量の推移



（調査情報部 田中 美宇）

飼料穀物

世界

25/26年度は生産量の上方修正から期末在庫は上方修正

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2025年8月12日、25/26年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は12億8858万トン（前年度比5.1%増）と前月から2492万トン上方修正された。主要生産国である米国の収穫面積や単収の引き上げに伴う生産量の上方修正などが反映された。

輸入量は、世界全体で1億9216万トン（同4.7%増）と前月から440万トン上方修正された。EUの輸入量が2200万トンと、高温

や乾燥懸念による減産見込みにより、前月から150万トン上方修正されたことなどが反映された。

消費量は、世界全体で12億8915万トン（同2.4%増）と前月から1339万トン上方修正され、引き続き高水準を維持している。米国やEUの上方修正が反映された。

輸出量は、世界全体で2億86万トン（同3.7%増）と前月から505万トン上方修正された。

これらの結果、期末在庫は、生産量の上方修正が反映され、2億8254万トン（同0.2%減）と前月から1046万トン上方修正された。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し (2025年8月12日米国農務省公表)

(単位: 百万トン)

国名	2023/24年度	24/25年度 (推計値)	25/26年度			
			(7 月 予測)	(8 月 予測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	34.55	44.79	34.04	33.15	▲26.0%
	生産量	389.67	377.63	398.93	425.26	12.6%
	輸入量	0.72	0.64	0.64	0.64	0.0%
	消費量	322.87	318.28	323.48	332.25	4.4%
	輸出量	57.28	71.63	67.95	73.03	2.0%
	期末在庫	44.79	33.15	42.17	53.77	62.2%
ブラジル	期首在庫	10.04	8.49	7.99	7.99	▲5.9%
	生産量	119.00	132.00	131.00	131.00	▲0.8%
	輸入量	1.72	1.50	1.60	1.60	6.7%
	消費量	84.00	91.00	94.00	94.00	3.3%
	輸出量	38.27	43.00	43.00	43.00	0.0%
	期末在庫	8.49	7.99	3.59	3.59	▲55.1%
アルゼンチン	期首在庫	2.32	2.48	2.78	2.78	12.1%
	生産量	51.00	50.00	53.00	53.00	6.0%
	輸入量	0.01	0.01	0.01	0.01	0.0%
	消費量	14.60	15.20	15.60	15.60	2.6%
	輸出量	36.26	34.50	37.00	37.00	7.2%
	期末在庫	2.48	2.78	3.19	3.19	14.7%
ウクライナ	期首在庫	3.00	0.64	0.31	0.76	18.8%
	生産量	32.50	26.80	30.50	32.00	19.4%
	輸入量	0.01	0.02	0.01	0.01	▲50.0%
	消費量	5.38	5.70	6.23	6.33	11.1%
	輸出量	29.49	21.00	24.00	25.50	21.4%
	期末在庫	0.64	0.76	0.60	0.95	25.0%
E U	期首在庫	8.02	7.31	6.33	6.23	▲14.8%
	生産量	61.95	59.31	60.00	58.00	▲2.2%
	輸入量	19.83	20.00	20.50	22.00	10.0%
	消費量	78.10	78.00	77.80	77.90	▲0.1%
	輸出量	4.39	2.40	3.00	2.50	4.2%
	期末在庫	7.31	6.23	6.03	5.83	▲6.4%
中国	期首在庫	206.04	211.29	195.18	194.18	▲8.1%
	生産量	288.84	294.92	295.00	295.00	0.0%
	輸入量	23.41	4.00	10.00	10.00	150.0%
	消費量	307.00	316.00	321.00	321.00	1.6%
	輸出量	0.00	0.02	0.02	0.02	0.0%
	期末在庫	211.29	194.18	179.16	178.16	▲8.3%
世界計	期首在庫	305.61	315.71	284.18	283.11	▲10.3%
	生産量	1230.73	1226.02	1263.66	1288.58	5.1%
	輸入量	197.54	183.61	187.76	192.16	4.7%
	消費量	1220.63	1258.61	1275.76	1289.15	2.4%
	輸出量	192.57	193.64	195.81	200.86	3.7%
	期末在庫	315.71	283.11	272.08	282.54	▲0.2%

資料: USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注: 各国の穀物年度 米国: 9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国: 10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル: 3月～翌2月。

(調査情報部 岡田 真希奈)

米国の大豆生産量の下方修正から期末在庫は下方修正

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2025年8月12日、25/26年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。

表 主要国の大豆需給見通し（2025年8月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2023/24年度	24/25年度 (推計値)	25/26年度		
			(7月予測)	(8月予測)	前年度比 (増減率)
米国	期首在庫	7.19	9.32	9.53	8.99 ▲3.5%
	生産量	113.27	118.84	117.98	116.82 ▲1.7%
	輸入量	0.57	0.68	0.54	0.54 ▲20.6%
	消費量	62.20	66.13	69.13	69.13 4.5%
	輸出量	46.27	51.03	47.49	46.40 ▲9.1%
	期末在庫	9.32	8.99	8.44	7.89 ▲12.2%
ブラジル	期首在庫	36.82	29.76	36.11	36.11 21.3%
	生産量	154.50	169.00	175.00	175.00 3.6%
	輸入量	0.87	0.55	0.15	0.15 ▲72.7%
	消費量	54.41	57.00	58.00	58.00 1.8%
	輸出量	104.17	102.10	112.00	112.00 9.7%
	期末在庫	29.76	36.11	36.96	36.96 2.4%
アルゼンチン	期首在庫	17.00	24.05	24.75	25.25 5.0%
	生産量	48.21	50.90	48.50	48.50 ▲4.7%
	輸入量	7.79	6.80	7.20	7.20 5.9%
	消費量	36.58	42.60	43.00	43.00 0.9%
	輸出量	5.11	6.10	5.00	5.80 ▲4.9%
	期末在庫	24.05	25.25	24.95	24.65 ▲2.4%
中国	期首在庫	32.34	43.31	43.48	43.48 0.4%
	生産量	20.84	20.65	21.00	21.00 1.7%
	輸入量	112.00	106.50	112.00	112.00 5.2%
	消費量	99.00	103.00	108.00	108.00 4.9%
	輸出量	0.07	0.08	0.10	0.10 25.0%
	期末在庫	43.31	43.48	43.38	43.38 ▲0.2%
世界計	期首在庫	101.78	115.31	125.12	125.19 8.6%
	生産量	396.93	423.97	427.68	426.39 0.6%
	輸入量	178.10	178.34	186.06	185.86 4.2%
	消費量	331.01	354.67	367.71	367.71 3.7%
	輸出量	177.81	181.75	187.63	187.44 3.1%
	期末在庫	115.31	125.19	126.07	124.90 ▲0.2%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月／ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

これによると、同年度の世界の大豆生産量は4億2639万トン（前年度比0.6%増）と前月から129万トン下方修正された。このうち、最大の生産国であるブラジルは前月から据え置かれたが、これに次ぐ米国は、前月に続く作付面積の減少を受けて、前月から116万トン下方修正された。

輸入量は、世界全体で1億8586万トン（同4.2%増）と前月から20万トン下方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は1億1200万トン（前年度比5.2%増）と前月から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億6771万トン（同3.7%増）と前月から据え置かれた。このうち、最大の消費国である中国は1億800万トン（同4.9%増）と同様に据え置かれた。

輸出量は、世界全体で1億8744万トン（同3.1%増）と前月から19万トン下方修正された。このうち、最大の輸出国であるブラジル

は前月から据え置かれたが、これに次ぐ米国は、バイオ燃料向け大豆油の国内需要増加などに加え、供給量の減少などにより前月から109万トン下方修正された。

期末在庫は、生産量の下方修正などを反映して1億2490万トン（同0.2%減）と前月から117万トン下方修正された。

今回の予測値に関して中国の輸入量に目を向けると、同日付で中国農業農村部が公表した25/26年度の中国の大豆輸入量9580万トンとUSDAの予測値には、引き続き1620万トンの乖離^{かいり}がある。米国のトランプ大統領は8月10日、自身の交流サイト（SNS）に中国が米国産大豆の購入を4倍に拡大することを望むと投稿している。今後の両国間の貿易交渉の行方を含めて、国際相場にも影響する中国の輸入動向が注目される。

（調査情報部 横田 徹）

米 国

米国は生産量の増加などから期末在庫は大幅に増加

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は2025年8月12日、25/26年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを公表した（表）。

米国内生産量は、収穫面積と単収の上方修正に伴い前月から上方修正され、167億4200万ブッシェル（4億2526万トン^{（注1）}、前年度比12.6%増）と前年度からかなり大きく増加し、過去最大の生産量が見込まれている。

米国内消費量は、130億8000万ブッシェル（3億3225万トン、同4.4%増）と前年度

からやや増加すると見込まれている。

輸出量は、28億7500万ブッシェル（7303万トン、同2.0%増）と前年度からわずかな増加が見込まれている。

期末在庫は、21億1700万ブッシェル（5377万トン、同62.2%増）と前年度から大幅な増加が見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、13.3%（同4.8ポイント増）と、前年度を上回ると見込まれている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり3.90米ドル（577円。1キログラム当たり

23円：1米ドル＝147.92円^(注2)、同9.3%安)
と前年度からかなりの程度下落すると見込ま
れている。

(注1) 1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振
興機構が換算。
(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・
月中平均の為替相場」の2025年8月末TTS相場。

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2025年8月12日米国農務省公表）

区分	一単位一	2023/24 年度	24/25 年度 (推計値)	25/26年度			前年度比 (増減率)
				(7月予測)	(8月予測)	参考（換算値）	
作付面積	(百万エーカー)	94.6	90.6	95.2	97.3	39.38（百万ヘクタール）	7.4%
収穫面積	(百万エーカー)	86.5	82.9	86.8	88.7	35.90（百万ヘクタール）	7.0%
単収	(ブッシェル/エーカー)	177.3	179.3	181.0	188.8	11.85（トン/ヘクタール）	5.3%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,360	1,763	1,340	1,305	33.15（百万トン）	▲26.0%
生産量	(百万ブッシェル)	15,341	14,867	15,705	16,742	425.26（百万トン）	12.6%
輸入量	(百万ブッシェル)	28	25	25	25	0.64（百万トン）	0.0%
総供給量	(百万ブッシェル)	16,729	16,655	17,070	18,072	459.05（百万トン）	8.5%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,711	12,530	12,735	13,080	332.25（百万トン）	4.4%
飼料等向け	(百万ブッシェル)	5,842	5,675	5,850	6,100	154.95（百万トン）	7.5%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,869	6,855	6,885	6,980	177.30（百万トン）	1.8%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,478	5,470	5,500	5,600	142.25（百万トン）	2.4%
輸出货量	(百万ブッシェル)	2,255	2,820	2,675	2,875	73.03（百万トン）	2.0%
総消費量	(百万ブッシェル)	14,966	15,350	15,410	15,955	405.27（百万トン）	3.9%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,763	1,305	1,660	2,117	53.77（百万トン）	62.2%
期末在庫率	(%)	11.8	8.5	10.8	13.3		4.8ポイント
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	4.55	4.30	4.20	3.90	22.7（円/kg）	▲9.3%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
注1：年度は各年9月～翌8月。
注2：1ブッシェルは約25.401キログラム、1エーカーは約0.4047ヘクタール。
注3：換算値は端数処理の関係で「表 主要国のトウモロコシの需給見通し」の米国の値と一致しない場合がある。

（調査情報部 岡田 真希奈）

中国

トウモロコシおよび大豆の価格動向

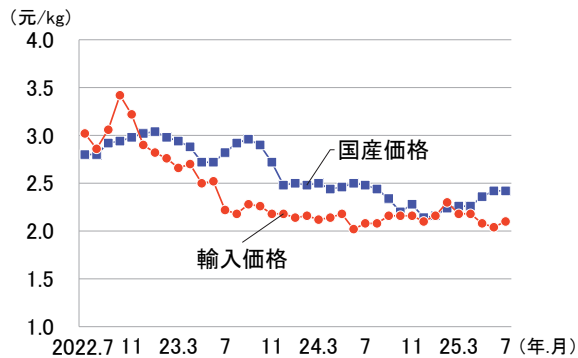
25年7月の国産トウモロコシ価格、
国内需給を反映して安定を維持

中国農業農村部は2025年8月27日、「農
産物需給動向分析月報（2025年7月）」を
公表した。この中で、25年7月の国産トウ
モロコシ価格は前月同となった（図1）。同
月のトウモロコシの需給を見ると、供給面
では主産地の在庫水準が低いことで、全体的
に供給は不足傾向にあるとされる。一方、需要

面では配合飼料におけるトウモロコシの使用
割合の低下や、コーンスターチ製造企業など
の稼働率も低水準にあることで、需給はおお
むね均衡状態とされる。このため、新穀の供
給開始まで国産トウモロコシ価格は安定的に
推移しつつも、やや上昇すると見込まれてい
る。

輸入トウモロコシ価格を見ると、養豚主産
地の中国南部向け飼料原料集積地となる広東
省黄埔港到着は、25年7月が1キログラム

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

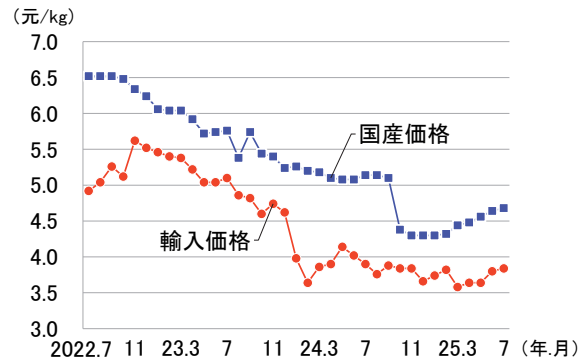
当たり2.10元（44円：1元＝20.93円^{（注）}、前月比2.9%高）とわずかに上昇した。また、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）が同2.42元（51円、前月同）と変わらなかったことで、輸入と国産の価格差は縮小した。

25年7月の国産大豆価格、需要停滞も供給減からわずかに上昇

2025年7月の国産大豆価格は、前月からわずかに上昇した（図2）。同月の大豆需給を見ると、供給面では産地の在庫が枯渇し、中央政府や地方政府による旧穀の備蓄大豆の放出が中心とされている。一方で、需要面では国内の多くの地域で高温多湿が続ぎ、大豆製品の消費が季節的な閑散期にあるため、製造企業は必要に応じた在庫補充のみ行っているとされる。このため、需要は少ないながらも高品質な大豆の供給が限られることで、国産大豆価格は引き続き安定的な推移が見込まれている。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省^{こくりゅうこう}の食用向け国産大豆平均取引価格は、25年7月が1キログラム当たり4.08元

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、山東省入荷価格。

注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

（85円、前年同月比12.9%安）と前年同月をかなり大きく下回ったものの、前月水準を維持した。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省^{さんとう}の国産大豆価格は、同4.68元（98円、同9.0%安）と前年同月をかなりの程度下回ったものの、前月に続き上昇した。同月の輸入大豆価格は同3.84元（80円、前月比1.1%高）となり、国産価格および輸入価格とも上昇幅が同じとなったことで、輸入と国産の価格差には変化がなかった。

国際相場に影響する大豆の輸入量は、前年並みの水準に戻りつつある。25年（1～6月）の輸入量は4937万トン（前年同期比1.8%減）とわずかに減少した。また、輸入額は同12.5%減の220億4000万米ドル（3兆2602億円：1米ドル＝147.92円^{（注）}）と報告されている。主な輸入先はブラジル（総輸入量の64.5%）、米国（同32.7%）、カナダ（同1.8%）であり、ブラジルからの輸入が増加している。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年8月末TTS相場。

（調査情報部 横田 徹）